

# ふるさと川上 史跡マップ



1 日吉神社



2 八王子社 (左側)  
3 若宮様 (右側)



4 貴船社



5 元真寺・山王滝



6 長福寺「地藏・虚空蔵」



10 北迫遺跡



12 藩政時代までの国境



13 萩原庚申塚



25 本覚寺のモッコク



20 大明神社



21 西山分校跡



24 船頭山本覚寺



22 王蘇山安楽寺



23 石風呂



28 北向地蔵



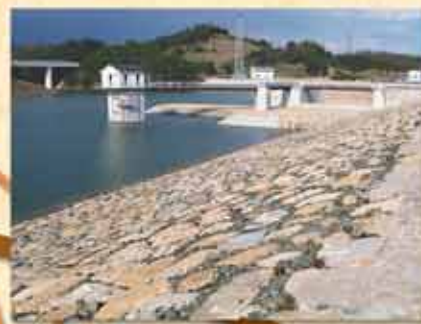
29 片倉天満宮



31 山王社



35 御作興



34 真綿川ダム



<平成11年>

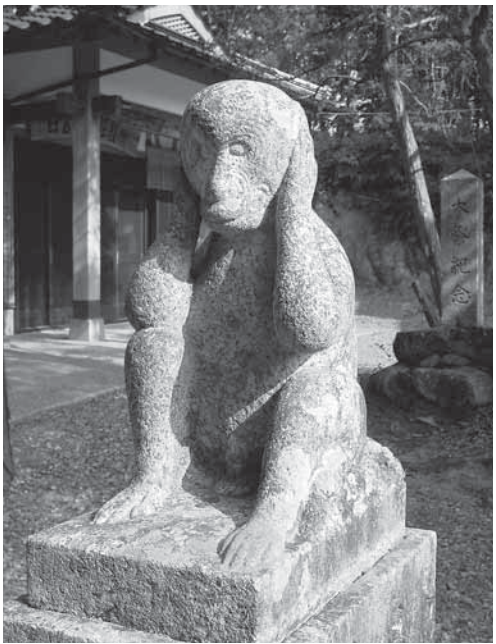
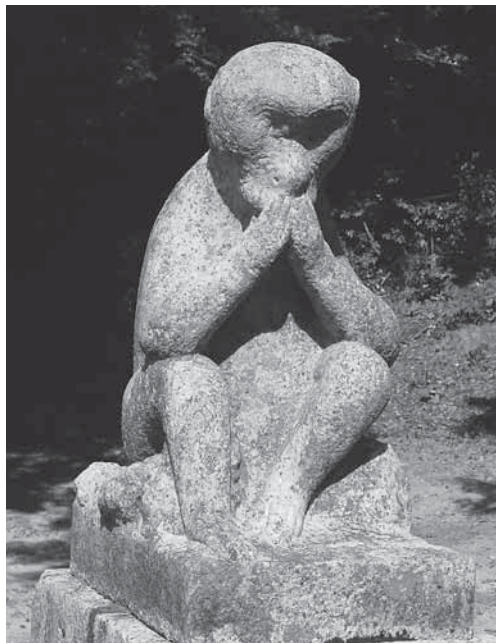


安楽寺前

<昭和28年頃>

### ① 日吉神社（北迫）

弘仁2年（811年）近江国坂本から勧請され、川上地域の産土神として祀られた。最初は、山王権現と号していたが、明治4年（1871年）比叡神社に変わり、更に明治7年日吉神社に改められた。社殿前に神社としては珍しい猿の石像（言わざる・聞かざる）の一对がある。



### ② 八王子社（北迫）

日吉神社の社殿の左側に石室がある。川上地域の人からマムシ除けの神様として信仰されている。

### ③ 若宮様（北迫）

日吉神社の社殿の左側、八王子社と並んで、赤い鳥居の奥に社殿が建立されている。地元の人たちは子供の神様として、若宮様と呼んでいる。

### ④ 貴船社（北迫）

日吉神社の右奥少し離れたところに石室がある。牛馬の神様として信仰され、例祭は7月第2日曜日、豊作を祈願している。

### ⑤ 元真寺・山王滝（川上宮の後）

滝は本堂裏にあり、真綿川に注ぐ支流の一つに流れ落ちる。周囲には多くの仏像が祀られ、滝垢離の行場として豊かな気配に満ちている。元真寺は、元永元真が不動明王や地藏菩薩を九州から迎え昭和5年に開いた真言宗の寺院。弘法大師蔵もあり、裏山には北迫八十八か所も祀られている。滝付近では、オオサンショウウオが捕獲されたという記録が残っており、清らかな溪流だったことが伺われる。

### ⑥ 長福寺「地藏・虚空蔵」（南側）

長福寺は14世紀にはすでにこの付近にあったとされるが、虚空蔵縁起によると江戸時代の元禄年間に当時廃れていた長福寺にお堂を建立し、虚空蔵を祀ったとある。現在のお地藏様は長福寺のもので、宝暦8年（1758年）の刻字があり、南側の北向地藏と呼ばれ親しまれている。

### ⑧ 散帛様（南側）

地域で火災が頻繁に起こったので、紀藤純政が火難除けに火の神様として石祠を建てて祀った。前の石灯籠に、文政8年（1825年）紀藤純政と刻字されている。

### ⑨ 大日社（南側）

散帛様と並んで建立されており、地域の守護神として、特に夏バテに壺験あたらかと信仰されている。

### ⑦ 川上大辻出土石塔婆

長福寺旧跡付近から発見されたと伝えられ虚空蔵板碑と呼ばれていた。板状の供養塔で、高さは約57cmで、銘文から文応2年（1261年）藤原国守と妻を供養し極楽往生を願って6千本の卒塔婆とともに建てられたことがわかる。鎌倉時代中期の板碑として全国的にも古い貴重な資料。（市指定有形文化財）

### ⑩ 北迫遺跡（川上北迫）

標高80mの丘陵頂上に作られた弥生時代の貝塚を伴う高地性集落。1900年前の貝塚と円形竪穴式住居と、1700年前の方形住居が発見された。丘陵斜面に作られた貝塚は長さ約18メートル、堆積の厚さ約1メートルで、ハイガイ、カキ、ハマグリ、シジミなどがあつた。稲穂を摘む石包丁が出土しており、生活形態が稲作農耕であることがわかる。（市指定史跡）

### ⑬ 萩原庚申塚（川上中学校内）

### ⑭ 川地庚申塚（上片倉）

### ⑮ 青木庚申塚（上片倉）

### ⑪ 長頸壺形土器

北迫遺跡の貝塚から出土した土器で、高さ約19センチ。九州北部の土器の特徴をもち優美な形をしている。表面がよく磨かれ赤く彩色された跡が残り、祭事などに使用されたと推定される。（市指定有形文化財）



■ 制作／川上郷土史研究会  
■ 監修／宇部市教育委員会  
平成20年（2008年）3月

## 川上校区について

川上校区は宇部市のほぼ中央部に位置し、市内8校区と山口市阿知須に隣接しています。上宇部校区と西岐波校区の一部が分離合併して、1989年に誕生しました。

江戸時代、山口県が周防・長門の二国に分かれていた時には、南側・北迫など（川上村）やひらき台など（宇部村）は長門国、請川・片倉など（岐波村）は周防国に属していたので、当時の国境が校区内を通っています。他にも古代の遺跡や寺社など、古い歴史を物語る多くの史跡が残されています。豊かな自然にも恵まれています。

近年、急速に交通網や住宅地が発展しており、特に山陽自動車道宇部インターチェンジの設置は、宇部市の玄関口の一つとして大きな役割を果たしています。

### ⑭ 下請川南遺跡（上請川）

### ⑮ 上請川遺跡（下請川）

平安時代末から中世にかけて西日本を中心に使用された石鍋の製作地。請川一帯には滑石の鉱床があり、ブロック状の塊を削り取り、ノミで削って成形した。現地では石鍋の未完成品や破損品が多く出土しており、完成直前までの加工をしたと思われる。直径20～25センチ、厚さ1.5センチ程度の鍋で、中世の遺跡からは外面にススが附着した状態で出土しており、調理などに使用されたものと思われる。



石鍋（未完成品）

### ⑰ 北迫六地藏（北迫）

### ⑱ 上請川六地藏（上請川）

### ⑲ 上片倉六地藏（上片倉）

それぞれの共同墓地入口に6体の地藏菩薩が並んで建立されている。六地藏は、六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上）のどこにいても救いの手を差し伸べる六道救済のために作られたもので、道端や墓地の入口にたてられることが多い。

### ⑳ 大明神社（上請川）

祭神は、木花之開耶姫、瓊瓊杵尊、罔象女神の三神で、享保18年（1733年）請川の住民により建立された。明治4年請川神社・大明神社と改称された。

### ㉑ 西山分校跡（上請川）

明治17年錦波小学校が新たに作られ、当時片倉にあった西山小学校は分校になった。明治25年（1892年）には片倉から請川に移され、上請川・下請川・片倉仙台の1・2年生が通学していた。昭和48年3月廃校となった。

### ㉒ 石風呂（上請川）

明治時代初期に、永山兵衛が本人や地域の人々の健康を願って作ったといわれている。奥行・幅ともに2.5m、高さは1.9m。今でいう「サウナ風呂」で、現在も使用可能。

### ㉒ 王蘇山安楽寺（上請川）

室町時代、雲庵膳禅師がこの地に王蘇庵を建立したのが始まりで、300年余後の元禄15年（1702年）、王蘇庵跡に2代蓮生が真宗寺院を建立、同17年安楽寺と呼ぶようになった。

### ㉔ 船頭山本覚寺（上片倉）

### ㉕ 本覚寺のモッコク

はじめ東岐波王子にあったが、寛永3年（1626年）この地に移ったという。開基は祐西。なお、山号の船頭山については、昔下片倉付近まで入江で、沖を通る船の船頭が目印にしていた山であったと伝えられる。

旧境内の庭園の一角にあるモッコクは、ツバキ科の常緑高木で、樹高は約11m、幹周囲は2.7m。枝張りには13m四方に及び大きな傘のような樹姿は美しい。市内では最大、県内でも有数のモッコクである。（市指定天然記念物）

### ㉘ 北向地藏（上片倉）

北向地藏の建立は台座に刻字されているように天保11年（1840年）であるが、その由来は室町時代までさかのぼると言われている。北向地藏尊と呼ばれるようになったのは明治に入ってからである。毎月24日の例祭や1・4・8月の大祭には多くの参詣者で賑わっている。

### ㉙ 片倉天満宮（あすとびあ）

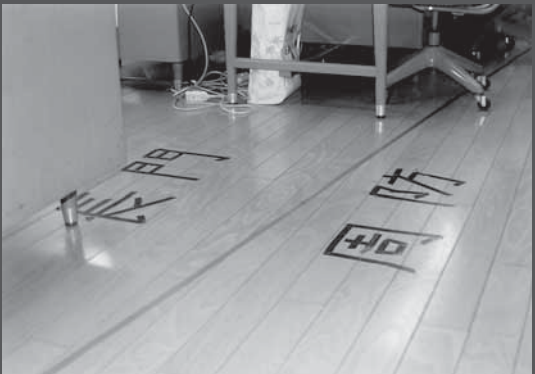
石祠に刻字された「寛政六甲寅十月十五日」（1794年）に建立された。さらに文政4年（1821年）と天保6年（1835年）刻字の石灯籠が奉納されている。祭神は菅原道真で南方八幡宮の末社。雷・雷除けの神として祀られたもの。

### ⑳ 片倉温泉（下片倉）

文化14年（1814年）湧き出る水を持ち帰り湧かしたことから始まったと伝えられる。「端の湯」と呼ばれ、泉質は単純弱放射能冷鉱泉。

### ㉓ 御作興（川上男山）

幕末頃、常盤池の貯水不足を補うため、真綿川上流の男山の溜池から約6kmの導水路工事が計画された。その一部として高さ5mの石組みの吐水樋（池からあふれる水を流す樋）が残っている。福原家文書に「奥山御作興」などの記載が見える。工事は明治維新後中断され完成されることはなかった。



川上中学校校舎の中を走る国境

### ㉓ 山王社（下片倉）

手前の一对の石灯籠は文政2年（1819年）に寄進されたもの、中程には子猿を抱いた珍しい猿の石像、その奥に4基の石祠があり、その内2基には山王社や大歳大明神の刻字がある。「天明」「七末」（1787年）に寄進されたと思われる鳥居の一部も残っている。下片倉高世にあった山王社の石造物が移されている。



山王社 親子猿の石像

### ㉔ 宇部臨空頭脳パーク（下片倉）

頭脳立地計画に基づき、地域産業の高度化を促進するため、特定事業の立地の受け皿となる中核的業務用地として整備されたもの。宇部新都市に近接しており、山口宇部空港へ車で約7分と高速交通ネットワークへのアクセスに優れるとともに、自然環境に恵まれた快適な就業空間が創出されている。

### ㉕ 山口県産業技術センター（あすとびあ）

県内産業の振興を「ものづくり」の面から支援する試験・研究機関。明治35年（1902年）、柳井村（現、柳井市）に設置された県立織講習所を起原とし、工業・醸造・窯業の各試験場との統合や名称変更を経て、平成11年当地へ移転した。

### ㉖ 真綿川ダム（川上男山）

市街地の浸水被害を防ぐ洪水調整と渇水時の農業用水及び河川環境を守る河川水の補給を目的に建設された。2つの河川をアースフィルダムで堰き止め、「未来湖」を形成している。ダム高21.9m、堤延長367.5m、有効貯水量は76万立方メートル。未来湖の面積は13ヘクタールで、常盤湖7分の1にあたる。